



兵庫あおのだより

独立行政法人 国立病院機構 兵庫あおの病院

新春号 (第94号)

令和2年1月

〒675-1327

兵庫県小野市市場町 926-453

TEL 0794-62-5533



【『宗佐厄神八幡神社』の初詣風景 加古川市八幡町野村】 写真提供者 都倉 昇

播州地方に春を告げる祭りとも、播磨の三大祭りの一つとも言われる当神社の厄除大祭は、毎年2月18日・19日に行われ、日本各地から大勢の参拝者が訪れ賑わうそうです。

厄除八幡・厄神と言う名称は、神護景雲3年(西暦769年)に和氣清麻呂が宇佐八幡宮に向かう道中、弓削道鏡の刺客に襲われた時、巨大な猪が現れて和氣清麻呂の難を救った言い伝えから、いつの頃からか、誰言うことなく厄除の大神と崇敬されるようになったとのことです。

| | | | |
|---------------------|-----|-------|-----|
| 新年のご挨拶 | 院長 | 浅香 隆久 | 2 |
| 第6回 小野ハーフマラソン参戦記 | 副院長 | 村松三四郎 | 3 |
| 「ねむの木賞」受賞に寄せて | 通所 | 芹生 初美 | 4～5 |
| 播磨の景勝地 ～干支 子年のオブジェ～ | | | 5 |
| 外来診察・検査担当表 | | | 6 |

広報誌「兵庫あおのだより」 季刊発行 編集:広報誌ホームページ編集委員会
病院ホームページ <https://hyogoaono.hosp.go.jp/>
メールアドレス 414-aono@mail.hosp.go.jp

新年のご挨拶

あさか たかひさ

院長 浅香 隆久



新年明けましておめでとうございます。

昨年5月1日に令和の時代が始まりました。その令和の始まりの年には台風15、19号が関東地方を襲い、多くの被害をもたらしたのは記憶に新しいところです。平成30年には我々にも比較的身近な場所の医療機関等にも被害を与えた震度6弱の大阪北部地震、兵庫県はじめ関西一円に大きな爪痕を残した台風21号等がありました。

視点を変えると平成の終わり頃から偶然なのか地球温暖化等の影響なのか自然災害が多発していると言えます。病院は災害の中にあっても通常に近い機能を発揮することが期待されており、令和2年の今年は、病院に底力を付けていく年にしなければならないと考えています。そのためには各部門・各職種がそれぞれの分野で力を付けていくと

同時に、「協働する力」(2019年の流行語大賞になった「ワンチーム」になること)も求められています。

他方、昨年4月から働き方改革関連法案(労働基準法の改正案)が実際に運用されはじめ、医療機関に大きな影響を与えつつあります。巷で語られている医師の労働時間の問題もさることながら、看護師等の他の医療技術者や事務方にもこの問題は少なくない影響を与えてくることが予想されます。令和2年4月から本格的に法律が動き始めると徐々に色々な場面で更に影響が起こってくる可能性があります。11月にあった国立病院機構の会議で、厚労省の鈴木医務技監は、その話の中で医師が大学などに再び集中する可能性について触れていました。また、医師の働き方改革に関する検討会の資料などを見ると、広い意味でのタスクシフティング、勤務日数・時間の縮減、委員会・会議の見直し、主治医制の見直し、総合診療科の活用(当院の視点では専門的医療よりも総合診療的診療の重要性ということになるのでしょうか)、更なるチーム医療の推進などが検討すべき課題の例として挙げられています。

最初に書いた「協働する力」と共通する部分としては、チーム医療やタスクシフティングが当院でもこれから数年以内に実現しなければならない課題になると思われます。

病院は色々な職種の人が集まって力を合わせることによって、患者さんやその家族の期待に応えていく組織です。令和の実質的な始まりとなる今年の病院の発展を目指して職員一人一人が有機的に協働し、ワンチームとして更なる高みを目指していくために、皆様のご協力お願い致します。

第6回小野ハーフマラソン参戦記

むらまつ さんしろう
副院長 村松 三四郎

始まりは暑気払いの席でした。小野ハーフマラソンのエントリー締め切りが近いことを知った庶務係長と私が、お酒の勢いで（庶務係長はソフトドリンクの勢いで）エントリーすることを決め、せっかくなので、ある程度人数を集めてお揃いのTシャツを作って走ろうと夢を膨らませました。後日庶務係長に人選をしてもらい、兵庫あおの病院の精鋭12人（大会日程の都合により3人涙の不参加含む）が集まり、未公認の（仮称）兵庫あおのランニングチーム（HART ハートと発音してください）が発足しました。大会までに私がデザインしたカッコいいお揃いのTシャツ（お揃いといっても全8色の色違いです）も作り、一度だけ合同練習をして大会に臨みました。

2019年12月8日（日）に待ちに待った第6回小野ハーフマラソンが開催されました。ハーフマラソンの部には男女合わせて約4000人がエントリーし、10kmの部には約1000の方がエントリーしていました。この大会は、プロ野球選手と一緒に走ることができるマラソン大会として有名ですが、参加費の一部をチャリティ費用として活用し、

車いす普及事業や災害地への寄付等を行っているチャリティーマラソンでもあります。元阪神タイガースの赤星憲広氏が第1回から大会会長を務められています。

当日は少し寒かったですが、天候もまずまずのマラソン日和でした。ハーフマラソンの部には私と庶務班2名の計3名（体調不良により2人涙の不参加）、10kmの部には放射線科2名と栄養管理室2名の計4名が参戦しました。私が走ったハーフマラソンの部では、赤星憲広氏が一緒に走っていたので、ちゃっかり握手してもらいました。また読売テレビの諸國沙代子アナと宮根誠司アナも走っていました。選ばれた7人は、全力を出し尽くし、見事全員無事に完走することができました。

よかった。よかった。ゴール後にいただいた豚汁とぜんざいが美味しかったですといいたのですが、ぜんざいは目の前で無くなり、豚汁は普通でした。全員がゴールした後にみんな記念写真を撮りました。

今年の大会が終わったところではありますが、来年の第7回小野ハーフマラソンにもメンバーを募り参加出来たらと考えています。



「ねむの木賞」受賞に寄せて

せりう はつみ
通所 看護師 芹生 初美

小春日和の穏やかな令和元年 11 月 13 日に、グランドプリンスホテル高輪の貴賓館において、常陸宮両殿下ご臨席の元、「ねむの木賞」授賞式が執り行われました。院長推薦により、「ねむの木賞」を受賞した看護師の私は、普段経験することの無い厳かな雰囲気の中で、身の引き締まる思いで臨みました。また、皇居において、上皇后陛下とのご接見もあり、大変貴重な時間を過ごしてまいりました。

さて、「ねむの木賞」は、「ねむの木の子守歌」の歌詞著作権を肢体不自由児事業振興の為に、日本肢体不自由児協会へ下賜された、上皇后陛下のご意志を永く記念するため、昭和 42 年に設けられたもので、医療型障害児入所施設（肢体不自由児施設や重症心身障害児施設など）や療養介護事業所、特別支援学校等において永年勤務し、障害児・者の日常生活指導などに携わり、優秀な成績をおさめている方に対して労をねぎらい、又、今後の活躍を期待して本賞を授与しているとのことです。



看護学校卒業後、34年間この病院で働き続けて参りました。現在の勤務場所は、重症心身障害児（者）の在宅支援事業の「通所あおの」で、今年で14年目とな

ります。日々、色んな方々との出会いと、職員の方々のサポートがあり、未熟な私を成長させて下さったと感謝しています。

近年、特に医療的ケアを必要とする方が増え、在宅においては、不安や困難なことも多く、様々な相談を受けています。地域・行政の関係機関とも連携を取りながら、地域で安全に安心して生活ができるように、当院としても様々な取り組みをしているところです。



私自身も、障害のある子どもと、20年間過ごした経験があります。息子から教わった様々なことを、日々の仕事に活かせるように努力しているところですが、上皇后陛下からも同じような想いのお言葉を賜りましたので、紹介いたします。

「私が、こどもを持った時、ちょうどサリドマイド児のことが取り上げられていたの。その時、いつ自分に降りかかってきてもおかしくないことと思い、他人事ではないと思いました。体が不自由な方は、自分の身を以て色々と私達に教えてくれる事、そういうことを心に留めて、私達は、「生きるとは」を、今関わっている人達から共に考えながら、成長していかなければならないと思うのです。」

接見中は、幾度も幾度も働く人々への

労へのねぎらい、励まし、感謝の言葉を承りました。そして、何よりも、お言葉のひとつこと一言が、障害児・者への思いやり、弱き人々の幸せを願うお心に満ち溢れ、誰もが共に手を取り合って生きる共生社会への実現の願いが伝わってまいりました。

この「ねむの木賞」は、兵庫あおの病院と、そして全職員の努力の賜物として受賞に至ったと思っています。これからも、地域社会に貢献できる「兵庫あおの病院」の職員として、さらなる精進をしてまいりたいと思っています。



ちょっと一息

播磨の景勝地

【子年のオブジェ】



加西市東横田町
北条鉄道播磨横田駅北側



多可郡多可町八千代区俵田
『ほたるの宿路』遊歩道入口前

兵庫あおの病院 診察・検査担当表

外来診療担当表

令和2年1月1日現在

| 診療科 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|------------|---------------------|--------|--------|----------------|--------|--------|---------------------------|
| 内科 | 午前 | 診察1 | 八幡 知之 | 中原 由紀子 | 陣内 研二 | 浅香 隆久 | |
| | | 診察2 | 義富 辰夫 | 石田 純一郎* | 松山 榮一 | 中原 由紀子 | 松尾 洋介 |
| | | 診察3 | 吉田 尚史 | 中山 昌彦* | 義富 辰夫* | 義富 辰夫* | 中山 昌彦* |
| | 午後 | 義富 辰夫* | 中山 昌彦* | 義富 辰夫* | 義富 辰夫* | | |
| 外科 | 診察5 | 村松 三四郎 | 平井 二郎 | 村松 三四郎 | 平井 二郎 | 李 震中 | |
| 整形外科 | 診察6 | | 平井 和雄* | 平井 和雄* (隔週) | | | 常深(午前)/ 担当医(午後) 予約制 |
| リハビリテーション科 | 診察5 | 村松 三四郎 | 平井 二郎 | 村松 三四郎 | 平井 二郎 | 李 震中 | |
| 小児科 | 診察7 | | | | 木藤 嘉彦 | | |
| 専門 外来 | 心身症外来 | | | | | 郷間 英世◇ | |
| | 呼吸器・血管外科 | | 平井 二郎* | | 平井 二郎* | | |
| | 内分泌・アレルギー外来 (午後) | | 木藤 嘉彦* | | 木藤 嘉彦* | | |
| | 渡航外来 (午後) | | 浅香 隆久* | | 八幡 知之* | | |

診療受付は平日の午前8:30～午前11:30です。

※印の外来診療は予約診療です。予約を取り、予約票をお持ち下さい。ただし、初診・急病の
場合は予約なしでも、診察を行っています。

◇印の外来診療は予約患者様のみの診察となります。(初診の方の診察は行っていません)

診療担当医が都合により変更となる場合がありますが、ご了承下さい。

患者様の状態により、診察の順番が前後する場合がありますがご了承下さい。

整形外科診察日には、リハビリテーション科の診察は休診となりますが、リハビリテーション科患者様の診察も行います。

検査担当表

| 検査内容 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------------|---|---|---|-------|---|
| 胃カメラ(午前) | | | | 服部 三太 | |
| 大腸ファイバー(午後) | | | | 服部 三太 | |

※検査はすべて予約診療です。

入院患者様診療

| 診療科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---------|--|---|------------------------------------|---------------------------|--|
| 小児科 | | | 山本 暢之 | 太田 武志 末松 正也 (交替制) | 岡本 賢治 河辺 泰宏 (交替制) |
| 小児外科 | 尾藤 祐子 富岡 雄一郎 大片 祐一 中谷 太一 曾田 洋輔 宮内 玄徳 (交代制) | | | 竹本 正和 久野 克也 (第2・4週) | 尾藤 祐子 富岡 雄一郎 大片 祐一 中谷 太一 曾田 洋輔 宮内 玄徳 (交代制) |
| 形成外科 | | | 藤井 美樹 (毎月第3週) | | |
| 皮膚科 | | | 加藤 則人 (毎月1回) 益田 浩司 (毎月1回) | 金子 由佳 (毎月1回) | 浅井 純 (毎月第3週) |
| 耳鼻いんこう科 | | | 吉本 公一郎 | | |
| 歯科 | 黄 文蘇 | | | 小紫 香代 | 有本 智美 |

兵庫あおの病院 電話 0794-62-5533 (代)